



地域に愛され、地域を盛り上げる水戸ホーリーホックが熱い!!



今期のクラブスローガンを『彩』と掲げる水戸ホーリーホックが大切にしているのは、地域とともに歩むこと。アツマールのジムは地域の方々も利用できるため、選手と一緒に筋トレをしたり、その合間に会話を交わしたりと、これまでにない親密な交流がうまれるのも大きな魅力のひとつ。そして、この環境が実現したのも、地域との関わりを深めるためのホームタウン活動を地道に続けてきた背景があつてこそ。子どもたちを対象としたスポーツ体験イベントや、震災復興の支援活動、地域のおまつりへの参加など、さまざまな角度から地域とつながる活動を続ける水戸ホーリーホックの「今」をご紹介します。



「七会中学校」の名が残る校門をくぐった先に、J2水戸ホーリーホックのクラブハウスがある。

ハウスの複合施設は全国初の試みだそう。ちなみに、チームがこれまで練習していたのは、ピッチが固く、増水時には沈没してしまう那珂川の河川敷のグラウンド。練習環境が格段に良くなったことで、昨年は創立以来のベストシーズンとなる成績を残し、今年も好スタートを切ることができたのです。

水戸市をはじめ、茨城県内9市町村をホームタウンとして活動しているプロサッカークラブ「水戸ホーリーホック」。創立25周年を迎える今年、チームは開幕以来12戦無敗という新記録を打ち立て、J1昇格へ向けて躍進を続けています。その原動力のひとつとなっているのが、昨年新たに完成した活動拠点「アツマル」の存在です。正式名称は、城里町七会町民センター「アツマル」。七会支所、公民館といった自治体の機能を集約した複合施設で、2015年に閉校となった旧七会中学校の跡地を活用して作られました。その一角に天然芝のピッチやトレーニングジム、クラブハウスが備えられています。廃校を活用した行政施設とプロサッカーチームのクラブ

監督に就任して2年目のシーズン。クラブ、そしてチームが良い方向に向かっていくという手応えを感じています。アツマルは、自然が豊かで空気がキレイ。緑に囲まれて、動物たちの鳴き声が聞こえる、のどかな環境の中で気持ちよく練習ができることは本当にありがたいですね。私自身はジムを利用することはありませんが、選手がトレーニングしている隣で町民の方と同じようにそれぞれのメニューをこなしている光景も見られ、すごいなと思います。選手の存在が身近であれば、応援しなくなる気持ちも高まります。選手にとっても地元の方にとっても、同じ空間で同じ時間を分かち合えるのはいいことだと思います。こんなに素晴らしい条件で練習できるのだから、チームはもっと良くなるはず。サッカーは、感じることで、伝えることが大切なスポーツなので、一感覚や運動という言葉に意識して指導にあたっています。たとえば、走り込みや食事の時間も、選手全員がなるべく一緒に過ごすようにする。その積み重ねが一体感につながると考えています。私が1年前に来

「一体感がある、アツマルで強い」チームを目指して 長谷部 茂利 監督

監督に就任して2年目のシーズン。クラブ、そしてチームが良い方向に向かっていくという手応えを感じています。アツマルは、自然が豊かで空気がキレイ。緑に囲まれて、動物たちの鳴き声が聞こえる、のどかな環境の中で気持ちよく練習ができることは本当にありがたいですね。私自身はジムを利用することはありませんが、選手がトレーニングしている隣で町民の方と同じようにそれぞれのメニューをこなしている光景も見られ、すごいなと思います。選手の存在が身近であれば、応援しなくなる気持ちも高まります。選手にとっても地元の方にとっても、同じ空間で同じ時間を分かち合えるのはいいことだと思います。こんなに素晴らしい条件で練習できるのだから、チームはもっと良くなるはず。サッカーは、感じることで、伝えることが大切なスポーツなので、一感覚や運動という言葉に意識して指導にあたっています。たとえば、走り込みや食事の時間も、選手全員がなるべく一緒に過ごすようにする。その積み重ねが一体感につながると考えています。私が1年前に来

応援したくなるような、躍動感のあるプレーで魅せます

キャプテン 細川 淳矢 選手

現在リーグ1位※を走っていますが、『俺ら1位だよ』という気持ちはありません。ひとつでも落としたり抜かれてしまふ、またこれまでのシーズンのような順位に落ちてしまうという危機感には常に感じています。そのプレッシャーや、皆さんからの応援を力に変えることができるチームでありたいですね。選手全員の気持ちを鼓舞して士気を上げていくのが自分の大切な役割だと思っています。皆が疲れているな、弱気になっているなと感じた時こそ雰囲気をつらつとさせよう意識しています。もともと周りを盛り上げることは得意なので、「ホッソらしくやっ」という先輩からの言葉を素直に受け止めて、じゃあ俺がやっやるぜという気持ちでいます。その中で幸司さん（本間選手）の存在はすごく大きくて、「好きなようにやっってみろ、もし方向が違ったら言うてやるから」と支えてくれるんです。経験があり、水戸の顔でもある方が傍に居てくれることは本当に頼もしいですね。選手個人としては、センターバックとしてゲームを支配できるような選手を目指しています。このポジションがしっかりしていれば点は簡単に取れないので、さらに、



キャプテン 細川 淳矢 選手

組み立てられるようプレースタイルを突き詰めていきたいです。チームとしても、攻守にわたってアグレッシブにプレーすることを大切にしているので、躍動する姿を観てぜひ楽しんでください!



沼田邦郎社長と菊池営業チームリーダー

『彩』というスローガンには、地域貢献活動や試合を通してまちに彩りを増やしていくという思いも込められています。主役であるのは、地域の皆さんです。そこに彩りを加えていけるようなクラブを目指しています。

※取材日5月1日



クラブハウスの半分は町行政の施設。町民も中を行き交う。トレーニング室は一般開放され、選手の隣で町民も体を鍛える。距離が近いから「頑張ってる」の声が選手に直接かかる。地域密着という環境で町も活性化した。



どの部屋にも深緑色の黒板が残っている。3年前に「廃校」になった校舎が蘇った姿。



「3年1組」などの教室札が「社長室」「監督室」などと変わっても、中が見える窓付きの教室ドアはそのままだ。



目標は昨年同様、6位以内、そしてプレーオフからのJ1昇格。地元で彩りを与えるチームを目指して走り続けるので、ぜひスタジアムに足を運んでください。



たときは、できていなかったことができるようになったり、選手それぞれの持ち味が出せるようになったり、チームが良くなっていることは感じます。ただそれが「強い」チームであるかどうかは結果次第。試合に勝つこそ、強いチームと認められます。目標は昨年同様、6位以内、そしてプレーオフからのJ1昇格。地元で彩りを与えるチームを目指して走り続けるので、ぜひスタジアムに足を運んでください。



長谷部 茂利 監督



地域の子どもたちを対象としたサッカースクール



スクールコーチ
飯田 和佳菜さん



様々な活動を通して、スタジアムに足を運んでもらえるきっかけづくりを続けています。

地域密着の大切な役割を担うホームタウン担当である芦田剛さんは年間867回のホームタウン活動を支える仕事に日々邁進しています。表舞台とは違う、もうひとつの役割をお聞きしました。

私たちホームタウン担当は、地域貢献活動に特化した活動をおこなう部署です。リーグのクラブは本拠地、つまりホームタウンに根ざした活動をおこなうよう定められていて、「ホームタウン担当」という職種はリーグならではのもの。現在ホーリーホックでは水戸市をはじめとする9市町村のホームタウンに加え、東北、関東、東エリアも含めて全部で21市町村とお付き合いをさせていただいています。それぞれの市町村の方が無料で試合を観戦できる企画を年間2試合開催しているの、その日程調整や内容調整はメイン業務のひとつです。また、地域のおまつりに参加したり、ホーリーくんと一緒に幼稚園や小学校にお邪魔してサッカー教室を開いたり、年間867回のホームタウン活動を行っています。水戸市内やその周辺地域の小学校では学校給食の牛乳にホーリーくんのマークを入れてくれていて、ホーリーくんのほうがチームより有名かもしれません(笑)。

昨年6月に幼稚園の先生から転職して、いまはスクールコーチとして奮闘中。小学生のころからサッカーを始めて、サッカーに関わる仕事につきたいという夢をずっと持っていたという飯田和佳菜さんに日々のお仕事についてお聞きしました。

水戸ホーリーホックにはトップチームのほかにユースやジュニアのチームがあり、地域の子どもたちを対象としたサッカースクールも開いています。スクールでは、園児のクラスから小学生高学年のクラスまで、各年代に合わせた練習を中心に行っています。スクールコーチは現在15名で、女性のコーチは私ひとり。コーチになってまだ間もないこともあり、先輩コーチの皆さんはとても親身にアドバイスをしてくれます。こうしてクラブハウスが近くに来たことで、トップチームの練習を見ることができ、声掛けのしかたや練習メニューの内容など、参考になることがたくさんあります。吸収すべきことが身近にある、とてもいい環境だと思います。スクールのほか、地域の幼稚園を巡回して、サッカーの楽しさをもっとたくさんの子どもたちに伝える活動も行っています。サッカーを中心に、ボールを使った運動などを通して体を動かす楽しさを知ってもらったりミニスクールで、体験した子どもたちが「楽しかった」「またやりたい」と言ってくれたときは嬉しいですね。興味を持ってくれた園や子どもたちに「近くでスクールもやっています」と声を掛け、スクール参加のきっかけ作りも心掛けています。個人的には女の子のスクール生がもっと増えてくれると嬉しいので、今年開催される女子のワールドカップが盛り上がることに期待しています。女性コーチがいることが、ひとつのきっかけに

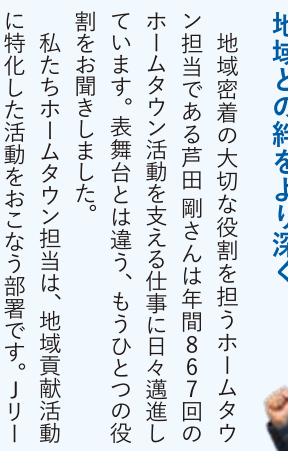
もっと多くの子どもたちにサッカーの楽しさを伝えたい



イベントでじゃんけん大会をしたり、学校の校門で登校時の挨拶をしたりと大活躍のホーリーくんのスケジュール管理も私たちの仕事です。水戸市のことも病院にも定期的にお邪魔していて、イベントに参加できないお子さんの病室にホーリーくんが遊びに行くこともあります。その子が退院して、「元気になったから試合を観に来ました」と写真を送ってくれたときはほんとうに嬉しかったですね。また、スクールコーチによる脳トレ教室など、子どもたちだけでなく高齢の方まで幅広い世代に向けた活動もおこなっています。アツマレができたことで選手とのコミュニケーションが格段に取りやすくなり、選手サイドにもイベントの趣旨をより理解してもらえるようになりました。これからも様々な活動を通して、スタジアムに足を運んでもらえるきっかけづくりを続けていきます。

人との出会いから生まれる感動も、活動の原動力に

イベントでじゃんけん大会をしたり、学校の校門で登校時の挨拶をしたりと大活躍のホーリーくんのスケジュール管理も私たちの仕事です。水戸市のことも病院にも定期的にお邪魔していて、イベントに参加できないお子さんの病室にホーリーくんが遊びに行くこともあります。その子が退院して、「元気になったから試合を観に来ました」と写真を送ってくれたときはほんとうに嬉しかったですね。また、スクールコーチによる脳トレ教室など、子どもたちだけでなく高齢の方まで幅広い世代に向けた活動もおこなっています。アツマレができたことで選手とのコミュニケーションが格段に取りやすくなり、選手サイドにもイベントの趣旨をより理解してもらえるようになりました。これからも様々な活動を通して、スタジアムに足を運んでもらえるきっかけづくりを続けていきます。



ホームタウン担当
芦田 剛さん



広報 加藤 健一さん

分刻みで様々な取材に対応している広報の加藤健一さんは、いつも笑顔が爽やか。水戸ホーリーホックの活躍で今期もますます忙しい様子でしたが、多くの取材に真つすぐ受け止める姿勢をとおして、水戸ホーリーホックのポリシーが伝わってきます。

水戸ホーリーホックは成績の低迷や資金難による存続の危機など、どん底を何度も味わってきました。東日本大震災の起こった2011年はクラブにとっても忘れられない年で、この時の地域支援活動が地域とクラブを結び、一歩になりました。私たちが目指すのは、地域に愛され、地域の皆さんに楽しさを提供できるクラブであること。ホームゲームを地元のおまつりのように楽しみにしてもらえると嬉しいですね。「ホーリーホックがあつてよかった」と思ってもらえるような活動を続けていくので、応援よろしくお願ひします!

なるといいなと思っています。ぜひスクールに遊びに来てください!



地域の幼稚園を巡回して、体を使う楽しさを知ってもらおうスポーツ体験教室を開催



5月21日(火) 株式会社アトラエにて、株式会社アトラエと資本業務提携及びユニフォームパートナー決定に関する記者会見が行われました。「水戸ホーリーホックを通して水戸の活性化、地域社会への貢献を進めたい」と考えておられますので、ぜひ応援をよろしくお願ひいたします」とアトラエの代表取締役CEO 新居佳英氏からも熱いエールを贈っていただきました。

リーグは親企業を持つプロ野球と違い、地域ありきの活動をするという特徴があります。とは言え、ホーリーホックはまさに地域全体に支えられているクラブ。どうステップアップしていくかが楽しみです。

『エールスポーツ茨城』
佐藤 拓也 編集長

『デイリーホーリーホック』
米村 優子



NEWS ニュース



株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック
〒310-0852 茨城県水戸市笠原町136-1
TEL: 029-212-7700

クラブハウス
〒311-4402 茨城県東茨城郡城里町大字小勝
2268-3 城里町七会町民センター アツマレ内
1997年2月7日創立